

# Quick Shifter

クイックシフター No.BPA1 V5 630  
取付・取扱説明書

**AutoExe**  
A New Driving Sensation

株式会社オートエクゼ  
〒135-0051 東京都江東区枝川2-15-8  
TEL:03-6458-7251 FAX:03-6458-7261

**5** 室内の作業です。  
シフトノブキャリアを固定するM10ナット4箇所を取り外し、純正シフトノブキャリアを外します。  
外したM10ナットは再使用します。

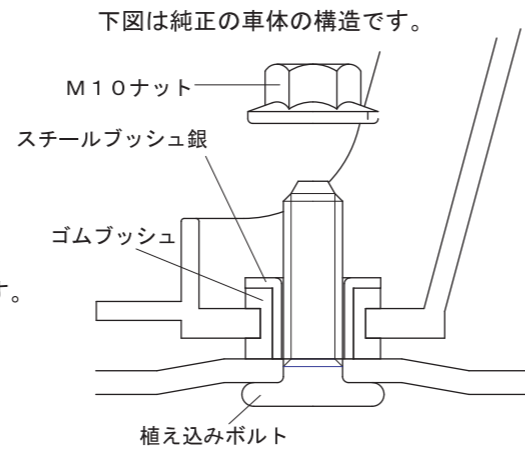


純正シフトノブキャリアアッセンブリーを露出し作業するため、センターコンソールを外し、左写真の状態にします。  
詳しくはマツダ（株）発行の整備書を参考に作業してください。



上の写真は車体から外した純正シフトノブキャリア4本の脚のうちの一箇所の写真です。

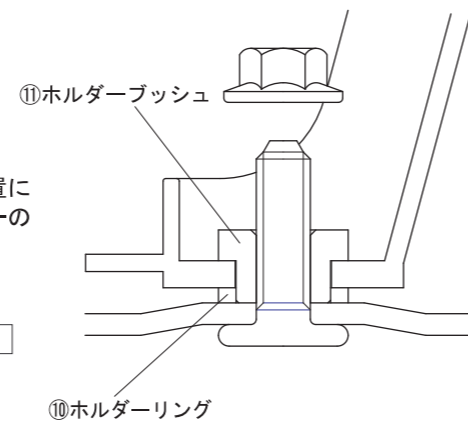
スチールブッシュ銀とゴムブッシュを4箇所とも外します。



純正シフトノブキャリアを外した4箇所の植え込みボルトに⑩ホルダーリング（スチール）4個を載せます。  
その上から純正シフトノブキャリアを載せます。



その上に⑪ホルダーブッシュ（アルミニウム）4個を差込みます。  
この時、⑩ホルダーリングがずれると⑪ホルダーブッシュが定位置に収まらなくなるため⑪ホルダーブッシュを差し込む前にドライバーの先端などで⑩ホルダーリングの位置を調整します。

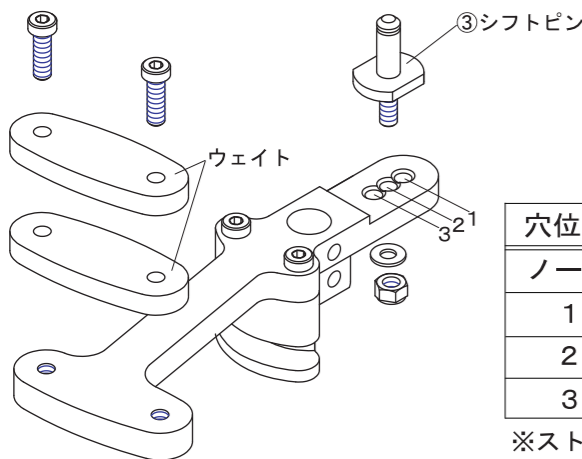


M10ナット4箇所を締めます。締め付けトルク：13-15N・m

取外したセンターコンソールパネルを全て元に戻して完成です。

## 6 付表 レバー比、及びウェイトのセッティング

オートエクゼクイックシフターはシフトピンとウェイトの調整でシフトフィーリングとストロークをチョイスすることができます。



穴位置	ウェイト	前後ストローク	備考
ノーマル	—	98mm	純正レバー
1	2枚	85mm	
2	1枚	71mm	出荷時の穴位置
3	0	58mm	

※ストロークは純正シフトノブ先端で計測する前後の移動距離です。

※穴位置は③シフトピンを差し込む①レバーの穴位置です。

※ウェイトの枚数はノーマルの重量から慣性モーメントをストローク比で設定した値です。お好みで設定してください。

この度はオートエクゼ “クイックシフター” をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。本書は当製品を車両に組み付ける前に行う作業、組み付ける時の注意点が記載してあります。作業を行う前に必ずご一読いただき、取り付けの際は本書に従って作業を進めていただきます。また、作業終了時には本書を必ずお客様にお渡し下さい。

### 適合車種

MAZDA3(BP系) ガソリンハイブリッドMT車 ・ ガソリン2.0L MT車  
CX-30 (DM系) MT車

### ！ ご注意（作業および使用者の方へ）

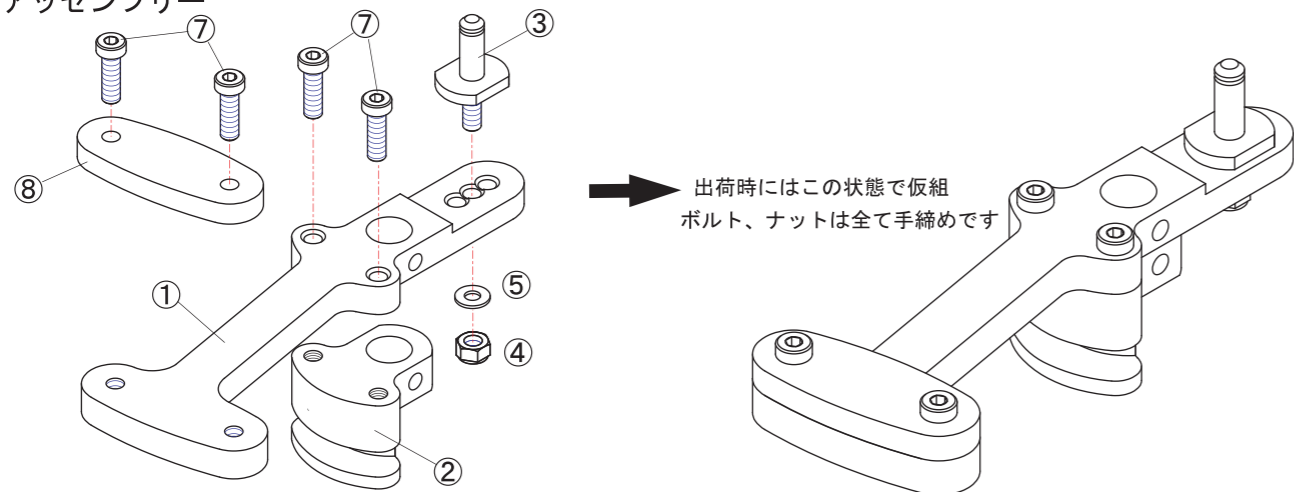
- 本製品を適合車種以外に使用しないで下さい。破損したり脱落し重大な事故に繋がる恐れがあります。
- 本製品を加工したり、改造しないで下さい。破損したり脱落し重大な事故に繋がる恐れがあります。
- 取付けは、作業に適した平らな場所で行って下さい。重大な事故や死亡事故に繋がる恐れがあります。
- 取付け時は、車止めをし作業を行って下さい。重大な事故や死亡事故に繋がる恐れがあります。
- 取付け時は、車が冷えた状態でエンジンを止め、作業を行って下さい。重大な事故や死亡事故に繋がる恐れがあります。
- 取付け時は、バッテリーの端子を外してから作業を行って下さい。重大な事故や死亡事故に繋がる恐れがあります。
- 本製品をご使用中は、定期的に製品の状態を確認し、異常が認められた場合は使用を中止して下さい。重大な事故や死亡事故に繋がる恐れがあります。
- 製品に傷、打痕や塗料などの凸凹をつけないでください。
- 当製品の通常取付けに関しては、法律に定める自動車分解整備の項目に該当するものではありませんが、作業の方には自動車整備を専門に3年以上経験されている方、または当該経験者の監督下で作業が可能なる方を原則とします。
- 純正部品の取外し・取付け作業は、マツダ(株)発行の整備書を参照に作業を行ってください。

### ！ ご注意（使用者の方へ）

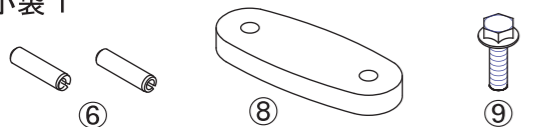
上記の内容を納得された上で、ユーザー様のご責任の範囲で正しくお使い下さい。また、本製品を使用した事によって発生したいかなる車両の不具合も当社は一切保証しかねます。

構成部品			
N.0	部品名	仕様 (材質等)	数
①	レバー	鋼材 三価亜鉛メッキ黒	1
②	セレクターブロック	鋼材 三価亜鉛メッキ黒	1
③	シフトピン	鋼材 三価亜鉛メッキ黒	1
④	シフトピンロックナット	セルフロックナット 鋼材 三価亜鉛メッキ (銀色)	1
⑤	6mmワッシャー	鋼材 三価亜鉛メッキ (銀色)	1
⑥	ロールピン 6-24	鉄 (ACP)	2
⑦	M6-20ボルト	鋼材 三価亜鉛メッキ (銀色)	4
⑧	ウェイト	鋼材 三価亜鉛メッキ黒	2
⑨	ガイド用M6ボルト	鋼材 亜鉛メッキ (イエロー)	1
⑩	ホルダーリング	鋼材 三価亜鉛メッキ黒	4
⑪	ホルダーブッシュ	A6063 アルマイト黒	4

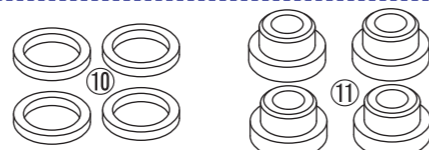
### レバーアッセンブリー



### 部品小袋 1



### 部品小袋 2



## 装着手順

**1** トランスミッション上部に位置するシフト・コントロール・モジュールを露出し、作業するためエアクリーナーボックスを外します。

詳しくはマツダ (株) 発行の整備書を参考に作業してください。

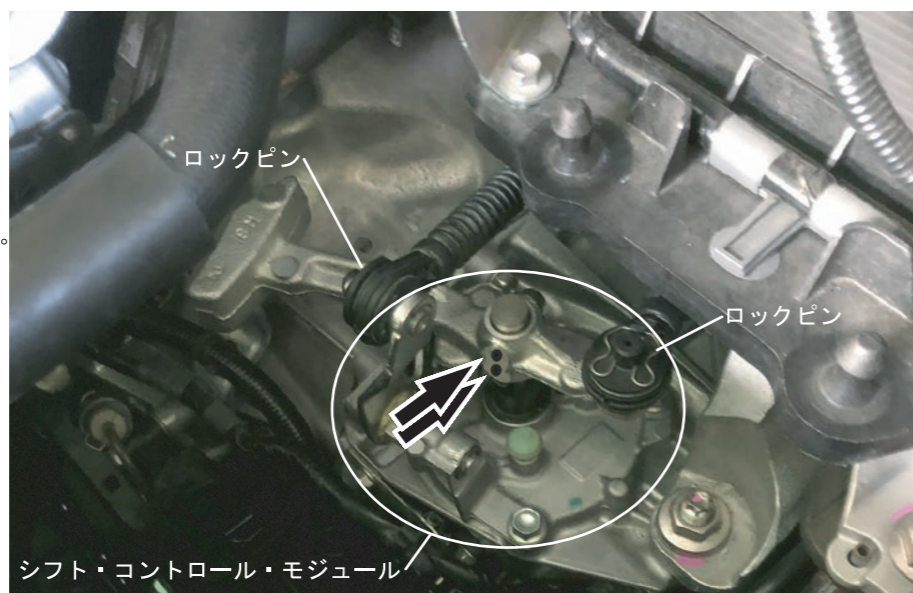
写真の様にシフト・コントロール・モジュールが露出したら、コントロール・ケーブル・エンド2本を取外します。

ロックピンを広げ、上に上げるとロックピンはコントロール・ケーブル・エンド側に残ったまま回転し固定が解除されます。この時ロックピンを引っ張り過ぎるとロックピンが塑性変形する恐れがあります。ロックピンは片側5mm以下で引っ張ります。

※マツダ (株) 発行の整備書参考。

コントロール・ケーブル・エンドが外れたら矢印の2本のロールピンを抜きます。抜くときにはロールピンポンチを使用し手前から奥に抜きます。ロールピンが挿入されている穴は直径6mmです。抜いたロールピンは再使用しませんが、脱落に注意してください。

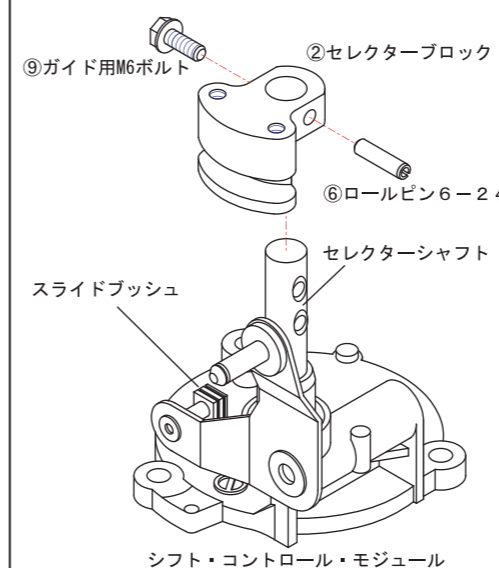
ロールピン2本を抜いたら純正シフトレバーを上方に引き抜きます。



**!** これより先の作業は必ずトランスミッションが30℃以下で行ってください。30℃以上では線膨張によりセレクターシャフトが部品に挿入できません。

## 2 ②セレクターブロックを取付けます。

※セレクターシャフトが入る穴は交差が小さく、気温によっては入りにくいことがあります。  
※シフト・コントロール・モジュールはトランスミッションから外さず、車上的のまま作業します。



②セレクターブロックをセレクターシャフトに取付ける工程です。その際②セレクターブロックを差し込みながら②セレクターブロックの溝にスライドブッシュ (黒色エラストマー) を入れます。

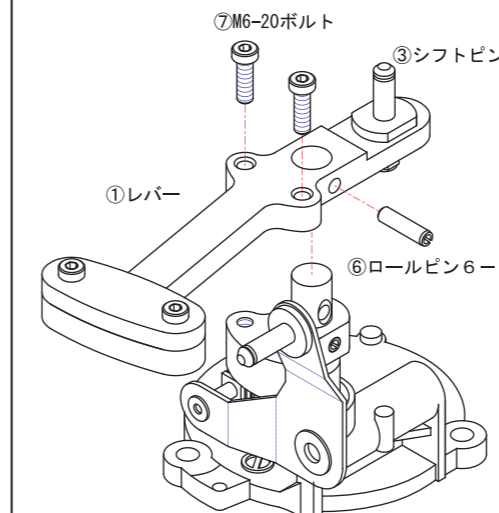
②セレクターブロックはセレクターシャフトの上から2番目の穴に⑥ロールピン6-24で勤合します。その際、位置決め⑨ガイド用M6ボルトを後ろ側から差し込み、位置を固定してから表側から⑥ロールピン6-24を打ち込みます。  
(打ち込みの際に⑨ガイド用M6ボルトの飛び出し、落下にご注意ください。)  
ロールピンの打ち込みにはロールピンポンチやC型クランプを使用してください

⑥ロールピン6-24が②セレクターブロックの面とピンの先端面が同一平面となるように挿入します。

右図のようになってこの工程は終了です。

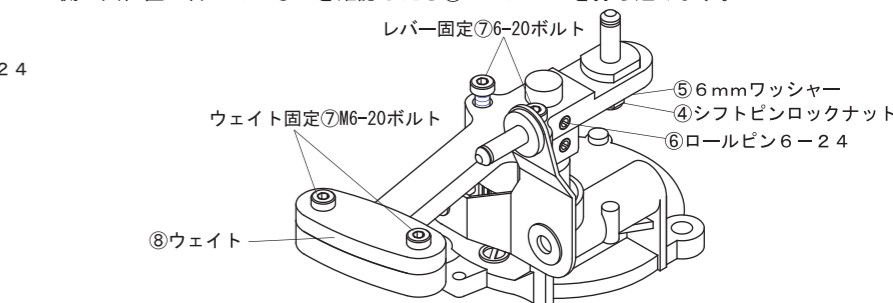
## 3 ①レバーを取り付けます。

※セレクターシャフトが入る穴は交差が小さく、気温によっては入りにくいことがあります。  
※組み立て前に [5] 付表 レバー比、及びウェイトのセッティングの項目をご覧ください。



①レバーをセレクターシャフトに取付ける工程です。  
①レバーをセレクターシャフトに差し込みます。

②セレクターブロックのネジ穴と①レバーの穴位置を合わせ、⑥M6-20ボルト2本を差し込み、軽く手で締めておきます。前の工程で使用した⑨ガイド用ボルトで①レバーの穴位置とセレクターシャフトの上側の穴位置が合っているかを確認したら⑥ロールピンを打ち込みます。



⑥ロールピン6-24が①レバーの面と同一平面となるように挿入します。

⑧ウェイトを固定している⑦M6-20ボルトをしっかりと締めてください。  
締め付けトルク: 8-11 N・m

①レバーと②セレクターブロックを固定する⑦M6-20ボルトをしっかりと締めてください。  
締め付けトルク: 8-11 N・m

④シフトピンロックナットしっかりと締めてください。  
締め付けトルク: 8-11 N・m

コントロール・ケーブル・エンドを差し込み、ロックピンを元の位置に戻します。

※ロールピン、ボルト、ナットを締め付ける順番は上記の順で行ってください。

※ボルト、ナットの締め付けにはネジロック剤高強度の塗布を推奨いたします。

## 4 エアクリーナーボックスの復帰

全てのボルトナットの締め付けを再確認後、エアクリーナーボックスを元に戻してください。  
詳しくはマツダ (株) 発行の整備書を参考に作業してください。